

2014年12月3日

モザンビークにおける ProSAVANA 事業
マスタープランドラフト公開の申し入れ

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

田中明彦 理事長 殿

2012年12月14日に開催された NGO・外務省 ODA 政策協議会において、モザンビークにおける ProSAVANA 事業が協議事項として議論されました。その結果、この案件については政策協議会の分科会として継続的に対話を進めるべく、意見交換会を行うことが合意されました。これ以降、2013年1月25日に第1回意見交換会を行い、以後9回にわたり会議をつづけるなかで、私たち日本の市民社会は一貫して、農民組織・市民社会による事業の計画策定プロセスにおける「実質的な」関わりと対話の重要性を求めてきました。

しかし第9回が開催された本年5月以降、外務省・JICAより意見交換会を非公開にしたいという要望が出され、これに対し市民社会側からは引き続きの公開性を求めてきているなかで、現在まで開催に至っておりません。そうしたなかでも、貴機構の便宜供与をいただいた今夏の現地調査時において、本件のプロセスと状況について問い合わせしてきましたが、ご回答がないままに、この度マスタープランのドラフト案が先月より存在し、12月4日にモザンビークの首都マプトにおいて ProSAVANA 事業関係者による会議が開催されるとの情報を得ました。

これについてこれまで意見交換会に参加してきた NGO の、日本国際ボランティアセンター、アフリカ日本協議会、オックスファム・ジャパン、ATTAC Japan、モザンビーク開発を考える市民の会、No! to Land Grab, Japan の6団体は、本件について、早急に事実確認をお願いするとともに、貴機構に対し以下の申し入れをいたします。

1. 現在、マスタープラン策定プロセスがどの段階にあるのか、また今後のプロセスについて明らかにされたい。
2. 現在何らかの形でマスタープランのドラフトが存在するのであれば早急に公開されたい。

「調整済みのドラフト」になってからの公開では、農民組織・市民社会からのコメント・意見は、「聞き置く」だけとなり、反映・修正が難しいことはこれまでのプロセスからも明らかです。また、形式的なプロセスで進めれば、モザンビーク市民社会の反発は必至です。

明日行われる会議を含めた調整プロセスを延期して、ぜひドラフト案をモザンビーク及び私たち日本の市民社会と共有いただき、意見交換の機会を設けていただけますようお願い申し上げます。

(特活) 日本国際ボランティアセンター

(特活) アフリカ日本協議会

(特活) オックスファム・ジャパン

ATTAC Japan

モザンビークの開発を考える市民の会

No! to Land Grab, Japan